

大隅半島を巡る

千変万化な地形を彩る、珠玉の遺産を愛でる。



5 大園橋(めがね橋) おおそのはし

九州南部の鹿児島県。その東部一帯に広がる広大な大隅半島には、幾筋もの河川が大地を潤して流れ、深く険しい山地と平坦な耕地が入り組んだ、多彩な地形を舞台として人々は豊饒な暮らしを築いてきた。そこでは幾世代にも及ぶ先人達の知恵と技術、情熱が受け継がれ、郷土の資産に結晶し、未来を支えている。

半円アーチの連続美

東九州自動車道の末吉財部ICから国道10号(日向街道)を東へ。さらに北上し、県道482号添いにある「南財部郵便局」前を北へ800m程下ると、横市川に架かる八ヶ代橋やかしろはし **1**がある。一連開腹式石造アーチ橋だが、アーチ部分は石造り、壁面と基礎にコンクリートを用いた混成橋である。壁面に開口部を設けた独特の形状は、橋体の軽量化と洪水流への対策のため。橋長は32m、径間長は鹿児島県内最大の25.3m。アーチの長さ^{きょうしほひ}と高さの比である拱矢比は、2.0で半円となるが、この橋の拱矢比は7.27で、極端に扁平なアーチ形状を描いている。

国道10号に戻って東へ進み、都城市



1 八ヶ代橋 やかしろはし

街の中町交差点で右折して国道222号へ。再び鹿児島県に入ったら県道71号、県道65号と進み、「花房峡憩いの森」の看板から斜め左へ。花房川を渡る橋の下流に牧野地区用水の水路橋 **2**が架かる。水路は幅0.9m、深さ0.7mのコンクリート造、橋台と橋脚は石造。4本の石積み橋脚は高さ6~10m。河床から上端部へ、細長くすっきりと伸びた端麗な姿が、谷の緑に映える。築造後100年程が経過しているが、大きな損傷もなく保存状態は



2 牧野地区用水の水路橋 まきのちくようすい^のすい^のすい^のき^のう

良好である。

さきほどの県道71号へ戻って西へ走り、県道63号を南に進むと、曾於市大隅町月野を流れる菱田川で3連石造アーチの市柴橋 **3**と出会う。明治

39年(1906)に架橋された石橋は、橋長34.5mの堂々たる存在感。拱矢比2.0の半円アーチの3連は魅惑的できえある。岩盤に根を張るような橋脚、二重アーチの優美な装飾、大型の水切り石など、先人達の工夫と熱意が感じられ、風格ある容姿に感嘆する。

堰堤に自然素材を活用

国道269号は鹿屋市街の北、串良町で県道67号と直交する。その細山田交差点から南へ進み、一つ目の信号機で左折。串良川の流れの中に川原園堰 **4**が現れる。この堰は自然の材料を活用した取水施設であり、全国的にも貴重な土木遺産と言えるであろう。

石造堰の築造は寛永15年(1638)と伝えられ、明治35年(1902)に改築されている。川幅全体にコンクリート土台20基を等間隔に配置し、その上流側に常緑広葉樹マテバシイの丸太(直径15cm)を横一列に置き、マテバシイの柴束(直径約30cm、長さ約1.8m)約150束を、丸太の上流側に隙間なく並べて立て掛け、その上に菰を敷き並べて堰とする。

堰を作り、柴を並べる作業は毎年3月、地元の人々の手仕事で行われ、秋口には柴も菰も役割を終え、朽ち果てるといふ。水を利用する人々によって堰の築造技術が代々受け継がれ、地域の誇るべき伝統と絆が今も脈々と守られているのである。

国道504号は同じく鹿屋市街の北、祓川町で一級河川の肝属川を渡る。この場所に架かるのが大園橋(めがね橋) 5である。完成は日露戦争が起こった明治37年(1904)。しかし、当時の記録が失われ、着工年、工事予算など詳細は不明だが、当時としては相当な経費を費やした大工事であったことだろう。

端正な表情を見せる2連アーチ石造橋であり、いわゆる「めがね橋」のスタイル。橋長25.7m、橋幅4.15mだが、伸びやかなアーチ形状によってデータより大きく感じられる。正確で緻密な石積みはまさに堅牢優美であり、橋脚の基礎は川床にがっちり固められている。現在は下流に新橋ができて現役を引退しているが、大隅地方に残された貴重なめがね橋の一つである。



3 市柴橋 いちしばしはし



4 川原園堰 かわはらのせき

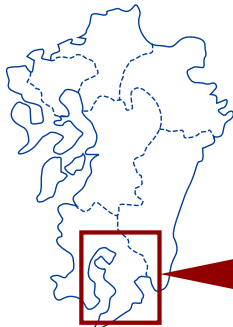


6 広瀬川(砂防) 二号堰堤(砂防堰堤) ひろせがわ(さほう)にこうえんてい(さほうえんてい)

豪快な砂防堰堤の放流

大隅半島の東部に位置する内之浦湾。ここに注ぐ広瀬川に沿って県道561号を上流に進むと、3km程で左手に「馬込観音」の看板が見える。その先、グランドゴルフ場入口を左に下りると、緑が生い茂る溪流に広瀬川(砂防)二号堰堤(砂防堰堤) 6が現れる。九州南部には軽石や火山灰など火山噴出物が堆積したシラス台地が広がっている。降雨によってこの土砂礫が流出し、下流域での災害につながることもある。これを防ぐための砂防工事は極めて重要である。この砂防堰堤は昭和15年(1940)の完成で、堤高9.5m、堤長45mの石積堰堤が重厚な迫力を見せる。精緻な関知積みめの堤体には、大小の水抜孔があり、多量の水が放流される景観は、郷土を守る土木施設の象徴と言える。

この地域の道の駅は、陶芸工房や精米所がある県道2号沿いの「たからべ」、バイキングレストランが人気を集める国道10号沿いの「すえよし」、名産の黒豚が評判を呼ぶ国道269号沿いの「おおす



鹿児島県
曾於市・志布志市
鹿屋市・肝属郡



道の駅「たからべ」



道の駅「すえよし」



道の駅「おおすみや五郎伝説の里」



道の駅「松山」



道の駅「野方あらさの」



道の駅「くいの松原おおさき」

み弥五郎伝説の里」、カフェメニューが充実した県道110号沿いの「松山」、コンビニと一体となった国道269号沿いの「野方あらさの」、温泉施設と物産館を備

えた国道220号沿いの「くいの松原おおさき」などがある。

土木遺産 in 九州のホームページアドレス
<http://dobokuisan.qscpua2.com/>